

「蓮如」(新しき世界へ 1971 年 11-12 月号)

服部之総著 理論社

克明にかかれた本。一生仕事である。この本で私はタクサンのことを学んだ。こんなスバラシイ研究をコツコツやられた著者に感謝する。

この本で始めて私は親ランや蓮如のコトを、これまでとは全くちがった見方で見ることができた。これは七十と云う私の年のセイもあり、五十年をかけて来たこの正食無碍(むげ)の一道の宣布の為に、サマザマナ目にあって来たセイでもある。

宇宙の偉大な秩序をアミダとか、名号とか念仏によって身につけて行くと云う方法は、キ教の方法と同様、二元論におちて、ツイニ、今日見る如きアワレナ不幸せな宗教渡世のモノになった。

しかしアクマデ全てを甘受して行くと云う方法の徹底ぶりには考えさせられる。

しかし私の目的は蓮如や親ランやキリストのとはちがう。私は大衆化・宗教化を願わない。ソレには全く興味がない。また事業としての成功も望まない。ただ世界中で 1 ダース位の人にホントーニリカイされたら本望である。

にもかかわらず今日まで私が PU と正食を広めて来たのは、自分の体得の真偽をたしかめるためと、自分の修行・実行のためのみであった。今私は世界中を訪ねて、コレラ以上のモノがないコトを知った。

これからの問題は、私の発見しまとめたモノに、ドンナ形体形式を与えて後世にのこすか、と云うコト。つまりカキノコシである。ソレにこの本は参考になった。

×

蓮如は正妻を五回迎えた。27 人の子があった。第五夫人は 50 才も年下だったと云う。正妻でない人も相当あったらしい。(子は▽△半々)

85 才まで約 42 年に本願寺を中興した偉大な組織力と経営法も、450 年後には名所の一つとして形だけのこり、真宗や一向道の意義は完全に失われている。つまり数十万の渡世を、数百万の善男善女からまき上げた金で養ってゆく大事業になっている。コンナ事なら、実業や工業やショオ(興行)と比べてムシロ罪がふかい。だから組織はゼツタイ作ってはいけない。

(GOL3723 より、1962,11,2「新しき世界へ」No326、1963 年 2 月号に掲載)